

の西風が、この後を追うような形で第2次海風前線を形成する。

5. 陸風前線の進行は海風前線より速い。
6. 不連続線の位置は山ろくや河川の流域が多く、高さに関係する。
7. 日本海低気圧の際の南の風が強い間は、石川県側からの西風は認められず、礪波平野南部の山沿いに地形性渦を生じ易い。
8. 西の風は石川県境の低い山を越えて浸入し始め、最盛期には立山連峰の山ろくに地形性渦を生じ易い。
9. 視程の悪いのは、礪波平野の北西部の小矢部川流域、富山平野の神通川と常願寺川にはさまれた地域、及

び黒部川下流域である。

これらはいづれも不連続線が停滞しているため、そのために煤煙の収束域となったためと考えられる。

## 文 献

- 1) 気象集誌 (1908) 27号, 明治41年。
- 2) 富山県学校気象研究会 (1970) 風の協同観測調査第1回 秋季 (昭和45年10月23日・28日)
- 3) 太田芳夫 (1965) 大気汚染に関する気象学的解析の研究, 研究時報 17, 11.
- 4) 太田芳夫 (1970) 富山県の大気汚染と気象, 産業環境工学, 68, 69.

## 気象研究ノート既刊号の販売 についてのお知らせ

さいきん発行された下記気象研究ノートをご希望の方は本号末尾に添付されたハガキに必要事項をご記入の上、学会事務局宛にお申し込み下さい。なお、第102, 105, および106号は品切れです。

1. 第100号 (1969), 回顧と抱負—戦後20年の時点に立って— (執筆 120名), 学会員 700円, 団体会員 890円, 会員外 970円,
2. 第101号 (1969), オホーツク海の海上気象: オホーツク海高気圧 (大井正一), オホーツク海における海況と気象との関連について (尾形哲), オホーツク海の海氷 (赤川正臣), オホーツク海の海況 (飯田隼人), オホーツク海の船体着氷 (沢田照夫), このほか気象学百年偶感 (堀内剛二), 最近の中国気象学論文リスト, 気象研究ノート総目次, 学会員 450円, 団体会員 540円, 会員外 590円。
3. 第103号 (1970), 気象力学における数値シミュレーション: 数値シミュレーションの簡単な歴史, 数値予報と今後の問題点, 大気大循環の数値実験, 実験予報, その他 (新田尚), シンポジウム—寺田寅彦論 (奥田穰その他の執筆), 学会員 490円, 団体会員 590円, 会員外 640円。
4. 第104号 (1970), 気象制御・気候改造: 気象制御・気候改造の歴史, 小規模気象制御・気候改造, 中規模気

象制御・気候改造, 大規模気候改造, 気象制御・気候改造と生物界, その他 (土屋巖), 学会員 450円, 団体会員 540円, 会員外 590円。

5. 第107号 (1971), 環境汚染特集号: 大気大循環と汚染物質 (菊池幸雄), 気候変動の人為的原因—主として環境汚染に関連して— (根本順吉), 対流圏の汚染 (川村清), 燃焼による空気成分 (酸素と炭酸ガス) の変化 (当舎万寿夫), 海洋汚染 (杉浦吉雄), 人工放射能による大気汚染 (葛城幸雄), 放射観測による大気汚染の現状 (藤本文彦), 都市汚染に対する大気拡散研究の現状 (伊藤昭三), 都市地域大気汚染 (大喜多敏一), 学会員 600円, 団体会員 720円, 会員外 780円。

6. 第108号 (1971), L. N. Gutman によるメソ気象学的過程の非線型理論序説: メソ気象学的過程の熱流体力学方程式, 大地の起伏の気流に及ぼす影響, 前線, テルミック, 積雲, 竜巻とトルネド, 局地風 (紹介, 浅井富雄), 学会員 590円, 団体会員 700円, 会員外 750円。

7. 第109号 (1971), 対流に関する研究の現状と問題点—京都シンポジウム (1970) の報告—: 基礎理論, 室内実験, 大気大循環, 大規模運動, 中規模運動と対流, 観測, 人工制御 (浅井富雄ほか 11名), 70年代の気象学のあり方についての投稿 (寺田一彦ほか 7名), 学会員 810円, 団体会員 960円, 会員外 1040円。